

神戸大学附属図書館 平成28年度 資料展

モダン神戸の光と影

～「新聞記事文庫データベース」より～

展示品目録

平成28年10月14日(金)～12月20日(火)

社会科学系図書館 2階展示ホール

六甲系の山地を開発し

大遊樂場を設ける

混み合います事日本一

無茶苦茶に客を詰込む神戸市電
一車一哩當乗客数は
東京、大阪の殆ど倍

黄金期の造船業

川崎造船所の大暴益

日本労働史に記録を残した

三萬五千の大示威行列

争議中なる川崎三菱の職工等を
應援に馳せ参じた阪神の労働團

九月廿日より華々しく開場した

観艦式
記念 海港博覽會

◆時代の尖端を行く設備◆

●神戸に世界的労働黨

◆鈴木友愛會長渡米報告演説

鈴木王國の巻(一)

金子直吉さんの話

滿洲の國勢調査

臨時戸口調査と稱す

1. 新聞記事文庫について

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
1-1	新聞記事文庫 切抜帳 (『樟脳工業 第1冊』)	記事	1912(明治45)～ 1939(昭和14)年	切抜帳『樟脳工業第1冊』より『沖繩実業時報』の記事。選定時の印など作業の一端を見ることができる。 *前期展示=10月14日(金)～11月20日(日)	経済経営研究所
1-2	支那新聞翻訳通信 / 東亜同文会	記事	1916(大正5)年	『支那新聞翻訳通信』は東亜同文会が中国で発行された新聞記事を翻訳、頒布したものだと思われる。このたび原資料が発見された。	経済経営研究所
1-3	凌霜 / 凌霜會 皇紀二千六百年記念號	雑誌	1940(昭和15)年	神戸商業大学の同窓会誌『凌霜』。35ページにわたって写真で大学を紹介している。坂西教授をはじめ新聞記事文庫に関わった人物を見ることができる。	社会科学系図書館
1-4	経済調査機関の発達と其の社会的意義 / 瀧谷善一述	図書	[19--]	新聞切抜事業の主幹を務めた瀧谷善一教授による講演。ドイツの経済調査機関で活発に行われていた新聞切抜事業についてその意義を語っている。	社会科学系図書館
1-5	新聞記事文庫 切抜帳 (『製糖業 第2冊』)	記事	1913(大正2)～ 1914(大正3)年	切抜帳『製糖業第2冊』より『沖繩実業時報』の記事。 *後期展示=11月21日(月)～12月20日(火)	経済経営研究所
パネル	坂西由蔵教授の肖像	写真	1942(昭和17)年 『凌霜』105号	坂西由蔵教授は新聞記事切抜事業の必要性を最初に提唱、事業開始後も主幹として深く関わった。	社会科学系図書館
パネル	神戸高等商業学校商業研究所(兼松記念館旧館)	写真	1921(大正10)年頃	1921(大正10)年頃の兼松記念館旧館(葺合校地)の写真。武田五一博士設計の鉄筋コンクリート2階建て1916(大正5)年に竣工した。	大学文書史料室
パネル	神戸高等商業学校「調査課」	写真	1916(大正5)年刊 『神戸高商卒業アルバム』	1916(大正5)年頃の神戸高等商業学校調査課の写真。明治45(1912)年に「調査部」で始まった新聞切抜事業は1914(大正3)年に「調査課」へ業務継承された。	大学文書史料室
パネル	新聞記事文庫の書架	写真	1956(昭和31)年 『神戸大学経済経営研究所要覧』	1956(昭和31)年度要覧に掲載された新聞記事文庫の様子。整然と並んだ切抜帳と、天井近くに掲げられた「新聞記事分類表」が見える。	社会科学系図書館

*会期中に展示替えを行います。

◇新聞記事文庫の記事が掲載された図書・雑誌

No.	書名 / 著者名等 出版地: 出版社, 出版年	掲載ページ	使用記事	備考
1	中村太八郎: 普通選挙運動にかけた生涯 / 小山茂喜著 山形(長野県): 山形村教育委員会, 2016.3	84,89,94,98, 110	「女房連の示威運動: 三百余名三隊に分れて: 初めは懇願し後は脅迫」(大阪朝日新聞)1918.8.6 ほか 計5点	
2	二・二六事件の真実 東京: 洋泉社, 2016.3. - (洋泉社mook)	60-62	「青年将校の一要路大官を襲撃: 首相、内府、教育総監ら即死す: 今朝帝都の大事変」(神戸新聞)1936.2.26 ほか 計4点	ISBN: 9784800308481
3	セピア色が語る札幌市電 / 長南敏雄著 札幌: 中西出版, 2011	35	「札幌の電車問題: 値上と拡張と除雪」(権太日日新聞)1918.11.9	ISBN: 9784891152307
4	不屈の春雷: 十河信二とその時代 / 牧久著 東京: ウェッジ, 2013	下巻109	「北支開発の中心機関 興中公司愈々創立: 創立事務所 満鉄支社内」(時事新報)1935.12.3	ISBN: 上:9784863101159 下:9784863101166
5	日経コンストラクション = Nikkei construction / 日経BP社 [編] 614号(特集記事「鉄筋のささやき」掲載). 東京: 日経BP社, 2015.4	42	「竹筋コンクリート破竹の勢い: 小川の橋にも十分鉄筋代用 神戸高工に凱歌揚る」(大阪朝日新聞)1938.8.23	
6	2.26: 昭和維新は成らず: 青年将校たちの戦い / 石橋敏行編 東京: インターナショナルラグジュアリーメディア, 2015.2	7,8,9,18,23,8 6	「山口一太郎大尉は無期その他五将校に判決」(大阪毎日新聞)1936.8.1 ほか 計30点	
7	戦争と復興: 昭和二十年代 / 池上彰監修・著 京都: ミネルヴァ書房, 2014. - (池上彰の現代史授業: 21世紀を生きる若い人たちへ; 昭和編; 1)	7	「奉天北方で日支兵衝突交戦中: 我軍支那兵營の一部を占領: 奉天商埠地を砲撃開始」(大阪朝日新聞)1931.9.19	ISBN: 9784623071630
8	週刊ビジュアル江戸三百藩 29号(「三春藩」の章) 東京: ハーパーコリンズ・ジャパン, 2016.5	14	「三春駒の衰頽」(中外商業新報)1915.5.5	
9	広岡浅子が生きた時代 東京: 三栄書房, 2015. - (San-ei mook; . 男の隠れ家 特別編集時空旅人; 別冊)	99	「新聞学研究に小橋三四子女史の渡米: 東京女大に講座を有つ準備: 労働大会も覗いて来る」(報知新聞)1919.7.6	ISBN: 9784779626500
10	兵庫県公立高等学校予想テスト 2016年度受験用 大阪: 英俊社.	119	「女房連の示威運動: 三百余名三隊に分れて: 初めは懇願し後は脅迫」(大阪朝日新聞)1918.8.6	
11	近代から第二次世界大戦まで / 津久井恵文 京都: かもがわ出版, 2015.12. - (朝鮮半島がわかる本; 2)	26	「連盟脱退は最上の方策: 今更の責任論は矛盾: 枢府の非難と外務省の見解」(大阪毎日新聞)1933.3.10	ISBN: 9784780308037
12	謎解き!橋の維持・補修: 老朽橋探偵と学ぶ / 日経コンストラクション編 [東京]: 日経BP社, 2015.11	72	「竹筋コンクリート破竹の勢い: 小川の橋にも十分鉄筋代用 神戸高工に凱歌揚る」(大阪朝日新聞)1938.8.23	ISBN: 9784822200541
13	山口市史: 史料編 / 山口市編集 民俗・金石文. - 山口: 山口市, 2008.3-2016.3	409	「青年職工を拡充: 更に十二府県へ訓練所新設: 商工省が養成計画」(大阪朝日新聞)1938.6.26	
14	米騒動とジャーナリズム / 金澤敏子他著 東京: 梧桐書院, 2016.8	271	「遂に軍隊出動す: 歩兵約百名騎兵五十名」(大阪毎日新聞)1918.8.12 ほか 計3点	

2. 神戸ゆかりの財界人

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
2-1	『良貨の不利益』ほか3点 / 松方幸次郎著	パンフレット	1923(大正12)年ほか	松方は自身の経済論をパンフレットに謄写し、たびたび配布した。そのうち『良貨の不利益』は、松方自身が神戸高商に寄贈したものである。	社会科学系図書館
2-2	経済野話 / 金子直吉著	図書	1924(大正13)年	経済論の他、経済史研究の重要性、国守改良論などにも触れられている点がユニークな著書。なお、表扉には金子自筆の献呈辞が書かれている。	人間科学図書館
2-3	[武藤山治の慶應義塾在学時の写真]	写真	1880(明治13)年頃	武藤が慶應義塾在学中に撮影された写真。武藤は福沢諭吉に憧れて慶應義塾に入学、福沢が創刊した『時事新報』社長として生涯を終えた。	経済経営研究所附属企業資料総合センター
2-4	[鐘紡兵庫工場の絵葉書3点(幼稚園・倶楽部・寄宿舎割烹室)]	絵葉書	不明	武藤は「温情主義」を唱えて劣悪な労働環境の改善に乗り出した。鐘紡兵庫工場では福利厚生施設が完備し、職員の離職率は大幅に減少した。	経済経営研究所附属企業資料総合センター
2-5	『次に来るもの』ほか2点 / 小林一三著	図書	1936(昭和11)年ほか	海外視察・訪問の見聞と共に、多方面に渡る議論を著作にまとめている。劇場や映画施設の訪問ルポを必ず挿入しているのが、いかにも小林らしい。	社会科学系図書館
パネル	明治24年の川崎造船所	写真	1936(昭和11)年 『川崎造船所四十年史』	1891(明治24)年の川崎造船所の全景写真。松方幸次郎を社長に迎えた後の川崎造船所は、最新施設を備えた日本有数の巨大工場となった。	社会科学系図書館
パネル	ストック・ボート輸出第1船“ARGONNE”	写真	1959(昭和34)年 『川崎重工業株式会社社史』	第一次世界大戦時、ストックボートの販売は時流に乗り、川崎造船所に大きな利益をもたらした。	社会科学系図書館
パネル	モネと松方幸次郎	写真	2012(平成24)年 『火輪の海：松方幸次郎とその時代』	モネと松方のツーショット写真。松方は、印象派の著名な画家であるモネとも交友があり、その作品『睡蓮』がコレクションに含まれていた。	社会科学系図書館
パネル	明治末期の神戸製鋼所	写真	1912(大正元年) 『株式会社神戸製鋼所』	金子直吉が買い取った不採算工場は、技術向上と規模拡大により、やがて神戸を代表する大企業に成長した。	社会科学系図書館
パネル	米騒動で焼討ちされる前の鈴木商店本店	写真	1918(大正7)年 『英和日商工人名録』	神戸では、鈴木商店が米の買占めをしているとデマにより、暴徒が本店を焼討ちした。	社会科学系図書館
パネル	米価問題と鈴木商店 / [鈴木商店米部編]	図書	1919(大正8)年	米騒動後に印刷された本書では、鈴木商店が政府の命令で外米買入れ等をしたにも関わらず、悪意でデマを流されて被害に遭ったと分析している。	社会科学系図書館
パネル	台湾銀行神戸支店	写真	1916(大正5)年 『寫真帖：各店及所在地』	鈴木商店は、台湾銀行を自社のメインバンクとしていたが、1927(昭和2)年の金融恐慌で共倒れとなった。	社会科学系図書館
パネル	鐘紡兵庫工場設立時の煙突と汽罐室 整列して壘柩を見送る淀川工場従業員	写真	1988(昭和63)年 『鐘紡百年史』	武藤山治は、三井銀行から鐘紡に派遣され、支配人として工場建設の指揮をとったが、後に経営を引き受けた『時事新報』に人権をめぐる告発記事を掲載して間もなく、鎌倉の自宅前で射殺された。	社会科学系図書館
パネル	国際労働会議に関する報告書 / 武藤山治 [著]	図書	1920(大正9)年	武藤は、第一回国際労働会議に日本の資本家代表として参加。独自の温情主義経営を提案することにより、会議に一石を投じた。	社会科学系図書館
パネル	近畿地方の四大電車	雑誌記事	1911(明治44)年 『實業倶楽部』第1巻第2号	箕有電車と初代社長・岩下清周の写真。岩下は三井銀行時代の小林一三の上司で、後に独立して北浜銀行を設立。小林の懇請により社長に就任した。	社会科学系図書館
パネル	最近實測神戸都市計畫地圖 / 石丸甚八著	図書	1930(昭和5)年	当初の阪急神戸駅は、神戸商業大学(葺合校地)の正門前にあった。三宮へは1936(昭和11)年に開通し、駅ビルはモダンな外観で長らく親しまれた。	社会科学系図書館

3. 労働者階級の目覚め

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
3-1	三菱川崎労働争議顛末：發端より無条件就業まで：附治安警察法 / 無絃琴生編	図書	1921(大正10)年	神戸における大争議は全国的なインパクトも大きく、騒動後、多くの書籍が発刊された。この図書は神戸の出版社丸一書店から出版されたもの。	社会科学系図書館
3-2	神戸に於ける三菱労働紛議 / 三菱造船株式会社、三菱内燃機製造株式会社、三菱電機株式会社[共編]	図書	1921(大正10)年	大争議の経緯を三菱がまとめた図書の表紙及び見開き。争議のため工場を一時全面休業することになったが、その間の職員の待遇について記載されている。	社会科学系図書館
3-3	神戸都市計畫地域調査 / 神戸市役所都市計画部[編]	図書	1921(大正10)年	神戸市の都市計画図。工業地域が広がっている西部の地域には、川崎造船所・三菱造船所・鐘ヶ淵紡績などの大工場が林立していた。	社会科学系図書館
3-4	友愛新報 / 友愛会本部	雑誌	1912(大正元年)	友愛会の機関紙、友愛新報の創刊号。当初は、政府の弾圧を回避するため、相互扶助を目的とした組織として設立されたという事実が確認できる。	社会科学系図書館

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
3-5	忘業中松方社長對職工側委員意見録並営業時間及賃銀改正ニ關スル顛末 / 川崎造船所[編]	図書	1919(大正8)年	1919(大正8)年に発生した川崎造船所の労働争議において、松方社長側より本邦初の8時間労働制が提示されたことが記された意見録。近代化産業遺産。	社会科学系図書館
パネル	大正当時の川崎造船所	写真	1921(大正10)年 岩崎虔著 『川崎芳太郎』	現在のハーバーランドの南側に建造されたこの巨大な工場は、労働者の街・神戸を象徴するものである。一万人を超える労働者が職工として働いていた。	社会科学系図書館
パネル	大阪合同紡績神崎工場 旭硝子尼崎工場内部	写真	2007(平成19)年 『図説尼崎の歴史： 尼崎市制九十周年 記念』下巻	当時の尼崎の工場内の様子が分かる写真。紡績工場では女性が多く働いていたことや、まだ少年といえるような年齢の人々が働いていたことが窺える。	社会科学系図書館
パネル	社会政策學會第一回大會參列會員	写真	1908(明治41)年 『工場法と勞働問題： 第1回大會記事』	同会は工場法についての討議を主テーマとして開催された。当時はまだ工場法は公布されていないが、その制定が喫緊の課題であったことが分かる。	社会科学系図書館
パネル	鈴木文治肖像	写真	1917(大正6)年 『友愛會創立5週年 史』	クリスチャンであった鈴木は、1912(大正元)年、各分野の専門家を集めて友愛会を設立した。生涯の大部分を労働者支援のための活動に捧げた。	社会科学系図書館
パネル	賀川豊彦肖像	写真	1921(大正10)年 『太陽』26巻8号	神戸を地盤に活動していた賀川は、国際的な評価も高く、ノーベル平和賞の候補にもなった。日本最大の生協であるコープこうべの前身の設立者でもある。	社会科学系図書館
パネル	神戸の街を練り歩く争議団	写真		大争議の象徴的な出来事である大示威行列の一場面を撮影したもの。カンカン帽をかぶった労働者達がレンガ造りのモダンな建物の前を行進している。	社会科学系図書館

4. 神戸の街と暮らし

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
4-1	さよなら神戸市電：写真でつづる54年の生涯 / 神戸市交通局編	図書	1971(昭和46)年	かつて神戸市内を走っていた路面電車、神戸市電が全線廃止になるに伴い出版された書籍である。神戸市電の歴史を数多くの写真や資料で振り返る。	社会科学系図書館
4-2	京阪神急行電鉄五十年史 / 京阪神急行電鉄株式会社編	図書	1959(昭和34)年	阪急電鉄の前身である京阪神急行電鉄の社史。電鉄事業だけでなく、沿線人口の増加を狙った住宅地経営や、宝塚新温泉など娯楽施設の開発も行った。	社会科学系図書館
4-3	神戸市水害誌附圖 / [神戸市編]	図書	1939(昭和14)年	1938(昭和13)年7月3日から5日にかけて降った豪雨による阪神大水害時の神戸市内を、写真やスケッチで記録したものである。	社会科学系図書館
4-4	観艦式記念海港博覧會誌 / 神戸博覧會協會編	図書	1931(昭和6)年	神戸沖での観艦式を記念して1930(昭和5)年秋に開催された海港博覧會の記録。人型ロボットの実演や余興が人気を集め、約118万人が来場した。	社会科学系図書館
パネル	神戸市電気局	写真	[1928(昭和3)年] 『十年間の神戸市電 氣事業』	電気事業と軌道事業が神戸市営になって10周年を迎えたことを記念して出版された。市営後の電気事業と軌道事業のあゆみがわかる。	社会科学系図書館
パネル	本邦初のスチール・カー(鋼鉄車)200形単車 創業当時の車両(シボレー車) 濁流渦巻く東部国道線三宮駅前附近	写真	1958(昭和33)年 『神戸市交通局四十 年史』	神戸市交通局の40周年を記念して出版された。軌道事業、バス事業、ロープウェイ事業、その他の附帯事業を豊富な写真とともに振り返る。阪神大水害の被害状況も掲載されている。	社会科学系図書館
パネル	上ヶ原浄水構場調整池構築中	写真	1938(昭和13)年 『神戸市水道擴張誌』 上巻	神戸市が行った水道拡張工事(1911(明治44)年着工、1921(大正10)年3月竣工)の記録。この工事の後にも拡張工事は相次いで行われた。	社会科学系図書館
パネル	市場大観 / 神戸市中央卸賣市場[編]	図書	1938(昭和13)年	展示している「消費財物価指数表」からは、第一次世界大戦勃発をきっかけに、衣料品・食料品の価格が暴騰した様子が見て取れる。	社会科学系図書館
パネル	神戸市中央卸売市場	写真	1954(昭和29)年 福田敬太郎編著 『神戸市中央卸賣市 場二十年史』	1932(昭和7)年、全国に類を見ない近代的設備を誇る神戸市中央卸売市場が竣工。翌年末までに主たる業種が業務を開始し、その配給機能を発揮した。	社会科学系図書館
パネル	甲子園海水浴場のにぎわい 六甲ケーブル	写真	1955(昭和30)年 阪神電気鉄道『輸送 奉仕の五十年』	阪急・阪神の両電鉄会社は沿線地域の開発の一環としてレジャー施設の建設を進めていった。阪神は海岸沿いの地の利を生かし海水浴場を、阪急は宝塚新温泉を開場した。また昭和期になると、レジャーの場として六甲山に両社競って路線やホテルを開業した。	社会科学系図書館
パネル	宝塚新温泉 六甲ロープウェイ	写真	1959(昭和34)年 『京阪神急行電鉄五 十年史』		社会科学系図書館
パネル	人間大砲	写真 ポスター	1931(昭和6)年 『観艦式記念海港博 覧會誌』	海港博覧會の余興として行われた、砲弾の代わりに人間を大砲で打ち上げる「人間大砲」は、海港博覧會と言えば人間大砲を連想するほどの人気であった。	社会科学系図書館

編集・発行：神戸大学附属図書館 2016(平成28)年 10月 14日発行

問い合わせ先：情報サービス課 情報リテラシー係

Tel: 078-803-5313 Fax: 078-803-7355 e-mail: literacy@lib.kobe-u.ac.jp URL: <https://lib.kobe-u.ac.jp/>

神戸大学附属図書館 平成28年度 資料展

モダン神戸の光と影

～「新聞記事文庫データベース」より～

取り上げた新聞記事のリスト

デジタルアーカイブ「新聞記事文庫」の簡易検索にて、リスト中のメタデータIDで検索するとその記事が表示されます。

<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/sinbun/index.html>



1. 新聞記事文庫について

No.	記事見出し	記事分類	掲載紙・発行日付	コメント	メタデータIDとQRコード
1-1	学校と新聞紙の利用(上・下)：神戸高商阪西教授の試み：[神戸高商に於る新聞紙切抜整理]	経済調査-1-025	『大阪朝日新聞』(1916(大正5)年2月15～20日)	切抜事業の説明に加え、実際の視点を得たり複数紙の比較により深い洞察が可能になったりするなど、新聞記事文庫による教育効果も述べられている。	メタデータID: 10072567
1-2	満洲の国勢調査：臨時戸口調査と称す	国勢調査-1-113	『奉天新聞』(1920(大正9)年8月2日)	当文庫のみで確認できる『奉天新聞』の記事。『奉天新聞』は1917(大正6)年に旧満洲の奉天で創刊された発行部数3,000部の夕刊紙。	メタデータID: 10085875
1-3	外務省の伯国移民奨励策：失業救済の一施設として	移民および植民-12-121	『国民新聞』(1922(大正11)年11月20日)	戦前の分類項目例として挙げた「移民および植民」に関する記事。失業救済策としての政府によるブラジル移民奨励について書かれている。	メタデータID: 10026955
1-4	世界は挙げて恐慌に直面す：財政通パーシュ氏米国の動揺を語る	恐慌および不景気-2-070	『大阪毎日新聞』(1929(昭和4)年10月27日)	戦前の分類項目例として挙げた「恐慌および不景気」に関する記事。ウォール街大暴落が最初に起こった1929年10月24日翌日のインタビュー記事である。	メタデータID: 10031438
1-5	昭和七年期に於ける製糖会社収益ぶり：筆頭は台湾製糖の八百九十余万円	製糖業-14-021	『台湾日日新報』(1933(昭和8)年2月5日)	戦前の分類項目例として挙げた「製糖業」に関する記事。好況にも関わらず株主配当が低いのは利益を諸債主に充当しているため、という内容である。	メタデータID: 00223461
／	『沖縄実業時報』記事14件	—	別紙	『沖縄実業時報』は1914(大正3)年に創刊された沖台拓殖製糖株式会社の機関新聞。当文庫記事と沖縄県公文書館にある原紙4枚だけが確認されている。	

2. 神戸ゆかりの財界人

No.	記事見出し	記事分類	掲載紙・発行日付	コメント	メタデータIDとQRコード
2-1	川崎造船所の現況	造船業-1-015	『中央新聞』 (1914(大正3)年5月27日)	川崎造船所の前身から、1914(大正3)年までの現況が記されている。当時の川崎造船所が日本有数の巨大工場であったことが分かる。	メタデータID: 00064832 
2-2	黄金期の造船業：川崎造船所の大暴益	造船業-2-028	『福岡日日新聞』 (1917(大正6)年12月13日)	第一次世界大戦時に川崎造船所が多大な利益を得ていたことが記されている。記事ではストックポートを売却した利益についても触れられている。	 メタデータID: 0006499
2-3	神戸新聞社へ放火す：全市無警察状態に陥る	米-12-057	『大阪朝日新聞』 (1918(大正7)年8月14日)	神戸市の米騒動では、8月12日、暴徒が鈴木商店を焼討ちし、引き続き神戸新聞社などを荒らし回った。当時の様子が生々しく速報されている。	メタデータID: 00733067 
2-4	大蔵省から見放され鈴木商店破綻に瀕す：金子氏等きのう政府に泣付けるも蔵相、断乎として拒絶す	会社-8-049	『国民新聞』 (1927(昭和2)年4月3日)	片岡蔵相は、まず台湾銀行の救済が最優先であり、鈴木商店が倒産しても傘下企業はそれぞれ再建されて生き残るだろうとの見通しを立てている。	 メタデータID: 10032426
2-5	鈴木王国の巻(一～[三])	人物伝記-3-043	『大阪朝日新聞』 (1928(昭和3)年4月19～21日)	鈴木商店倒産後のインタビューで、金子直吉は倒産の一因として、事業拡大による自身の統率力低下と、関連企業への投資資金固定化を挙げている。	メタデータID: 10086906 
2-6	国際労働会議：第一日	国際労働問題-3-084	『東京日日新聞』 (1919(大正8)年11月7日)	第一回国際労働会議が開催された際、その第一日目についての報告。記事内には、会議に参加した武藤山治の名前が挙げられている。	 メタデータID: 00787215
2-7	「番町会」を暴く	日本-25-073	『時事新報』(1934(昭和9)年1月19日)	武藤の発意により、時事新報は「番町会を暴く」と題した告発記事を掲載。間もなく武藤は射殺され、政財界では帝人事件が引き起こされた。	メタデータID: 00484915 
2-8	大阪と交通機関(一～五)	電気鉄道-1-071	『国民新聞』 (1913(大正2)年9月19～27日)	沿線住民の少ない箕有電車が、小林一三のアイデアにより、開業当初から観光地・住宅地開発を手がけ、乗客増を図っていたことを指摘している。	 メタデータID: 00096742
2-9	箕面[箕面有馬電鉄会社]の新線出願理由	電気鉄道-1-020	『大阪毎日新聞』 (1912(大正元)年8月19日)	神戸と大阪を結ぶ私鉄は、当時すでに阪神電車が開通していたが、常に混雑していたため、小林は北側に高速の新線を計画し、開通させた。	メタデータID: 00096691 
2-10	小林式経営法	経営-5-124	『国民新聞』 (1931(昭和6)年9月19日)	小林は常に企業と顧客の共存共栄を図っていた。記事では、株主優待制度を通勤乗客にまで広げ、社会サービスを普及させる試みが紹介されている。	 メタデータID: 10029841
2-11	新版ドイツ経済へ：欧州がえり小林一三氏の土産話	外交-152-204	『大阪朝日新聞』 (1940(昭和15)年7月16日)	小林は本来、独裁政治と統制経済には反対の立場であったが、外遊でナチスの躍進を目にし、ドイツとの提携と南進政策を主張するに至った。	メタデータID: 10170508 

3. 労働者階級の目覚め

No.	記事見出し	記事分類	掲載紙・発行日付	コメント	メタデータIDとQRコード
3-1	我国の造船職工(一～四)	造船業-1-008	『大阪毎日新聞』 (1913(大正2)年4月9～12日)	第一次大戦前の労働者の労働・生活状況として、川崎造船所の例が掲載されている。生活のために、長時間労働を自ら進んで行わざるを得なかった。	メタデータID: 00064825 
3-2	職工天下の各工場(上・下)	労働-2-51	『大阪毎日新聞』 (1917(大正6)年7月1～4日)	第一次大戦による特需により、川崎造船所および神戸製鋼所においていかに労働者たちが優遇されるようになったかが報じられている。	 メタデータID: 00728350
3-3	失職者慮るに足らず：戦後の事業縮小と県下の失業者調査：その数実に三千五百五十九人：百姓に復帰した者が五分の一	労働問題-7-45	『神戸新聞』 (1919(大正8)年5月16日)	第一次大戦が終結すると、反動で各種工業への需要が減少し、失職者が増大した。記事では、県が行った失業者調査の結果について報じている。	メタデータID: 00791481 
3-4	神戸市の住宅問題：此の不安を奈何：月曜論壇	住居問題-1-090	『大阪毎日新聞』 (1919(大正8)年5月5日)	当時の神戸における住宅問題、特に労働者の借家事情がいかに厳しいものであったかということ、そしてその現状に対する問題提起が記されている。	 メタデータID: 10059855
3-5	住宅難の救治：神戸市独特の事情	住居問題-2-141	『神戸又新日報』 (1919(大正8)年9月28日)	具体的な数値を示して神戸の人口増加に警鐘を鳴らすとともに、今後建てるべき住宅のあり方や都市計画についてのプランを提唱している。	メタデータID: 10060019 
3-6	理想的的の職工待遇：神戸の鐘ヶ淵紡績会社	労働-1-26	『大阪朝日新聞』 (1912(大正元)年10月6日)	1912(大正元)年時点における鐘ヶ淵紡績の労働者に対する福利厚生がいかに充実していたかが詳細に記されている。	 メタデータID: 00728232
3-7	工場法の実施に就て(上・下)	労働者保護-1-100	『大阪朝日新聞』 (1916(大正5)年9月1～2日)	工場法の施行が決定するに際して、その内容が資本主義と矛盾しないばかりかむしろ日本の発展のために必要であるといった内容が記されている。	メタデータID: 00773224 
3-8	著しく能率を増進せる工場法の効果：時間も五時間も制限して生産量は少しも減退せぬ：従業者の気分が緊張した	労働者保護-2-60	『中外商業新報』 (1919(大正8)年5月20日)	工場法の施行は、労働者を長時間労働などから保護するとともに、資本金にとっても経済的なデメリットは起こっていなかったことが記されている。	 メタデータID: 00773320

No.	記事見出し	記事分類	掲載紙・発行日付	コメント	メタデータIDとQRコード
3-9	八時間制可決：労働時間制委員会：国際労働会議の労働時間制委員会は十七日夜の会議において特殊国を除き一日八時間一週四十八時間制を採用することに決せり：時間制決定迄の討論	国際労働問題-3-171	『大阪毎日新聞』(1919(大正8)年11月20日)	国際労働会議における8時間労働の議決において、日本が特殊国としてこれを免れたこと、また労働者側はこれに反対の意を示していたことが分かる。	メタデータID: 00787302 
3-10	日本は除外：愈々特殊国と決定す：鎌田政府代表委員発	国際労働問題-3-176	『中外商業新報』(1919(大正8)年11月20日)		 メタデータID: 00787307
3-11	工場主協会に上った労働者の休日変更：一日十五日の旧慣を破って第一日曜と第三日曜に：子供の休日と一致の為	労働者保護-2-043	『大阪朝日新聞』(1919(大正8)年4月20日)	東京で開催された工場主協会の記事。この会で職工の休日を日曜日に変更してはどうかという提案がなされ、その動きは全国に広まった。	メタデータID: 00773303 
3-12	労働者の休日を日曜日に改めたい：東京ではこの案が成立し相だ：大阪でも是非之を実行したい：大阪府当局の談	労働者保護-2-069	『大阪新報』(1919(大正8)年5月31日)	東京の工場において休日を日曜日に変更する、ということがほぼ決定事項となると、その流れは各地区で前向きに議論されるようになった。	 メタデータID: 00773329
3-13	神戸に世界的労働党：鈴木友愛会長渡米報告演説	労働問題-2-083	『大阪朝日新聞』(1917(大正6)年2月20日)	1917(大正6)年、友愛会神戸連合会が設立される。記事では同年2月18日に開催された、鈴木会長による神戸での講演会の様子が報じられている。	メタデータID: 00790569 
3-14	職工側の要求：先ず電工部より提出の段取：軽拳妄動を警む部長の訓示：川崎造船電気工作部	労働問題-18-045	『神戸又新日報』(1921(大正10)年7月1日)	大争議の発端となった、川崎の職工による要望書提出について報じたもの。会社の重役は、社長不在を理由に、要望の受入を拒否した。	 メタデータID: 00794946
3-15	日本労働史に記録を残した三万五千の大示威行列：争議中なる川崎三菱の職工等を応援に馳せ参じた阪神の労働団：秩序整然と神戸市中を練り廻る	労働問題-18-074	『大阪朝日新聞』(1921(大正10)年7月11日)	大争議の象徴的な出来事である大示威行列について報じたもの。神戸だけではなく、阪神地方の労働者達が応援に駆け付け、神戸市中を練り歩いた。	メタデータID: 00794975 
3-16	神戸川崎造船所の罷業職工団 抜刀せる警官隊と大衝突：双方の負傷者数十名に上る	労働問題-18-115	『大阪毎日新聞』(1921(大正10)年7月30日)	警官による抜刀事件が発生し、ついに死者まで出てしまった。この記事では警察、労働者双方からの事件に対する見解が掲載されている。	 メタデータID: 00795016
3-17	争議団の解体：恨は長し!血を吐くような最終宣言を発表して：解雇職工団の浪人会組織	労働問題-18-171	『大阪毎日新聞』(1921(大正10)年8月12日)	長期にわたる壮絶な争議は、無条件就業という形で幕を閉じた。この記事には敗れた労働者たちの無念がにじみ出るような「最終宣言」が掲載されている。	メタデータID: 00795072 
3-18	局内から見た神戸の労働争議	労働問題-18-212	『東京日日新聞』(1921(大正10)年8月29日～9月6日)	争議の直接の指導者ではないが、友愛会の代表としての鈴木文治による見解が掲載されている。冷静な分析の内に資本家への批判が強く感じられる。	 メタデータID: 00795113
3-19	怠業問題で紛糾中に八時間労働制を発表：松方社長負けずになって奥の手を出す：川崎でやるなら三菱でもやる：紡績業社に対するいい皮肉：[(十七)]	労働問題-10-123	『大阪毎日新聞』(1919(大正8)年9月20日)	川崎造船の怠業による労働争議において松方社長が本邦初の8時間労働制の導入を労働者側に提示したこと、およびその影響について記されている。	メタデータID: 00793458 

4. 神戸の街と暮らし

No.	記事見出し	記事分類	掲載紙・発行日付	コメント	メタデータIDとQRコード
4-1	電気市営の第一日	電気工業-6-141	『神戸又新日報』(1917(大正6)年8月1日)	神戸市が神戸電気株式会社を買収し、電気事業が1917(大正6)年8月1日に神戸市営となった。記念すべき市営第一日目の記事である。	メタデータID: 00055136 
4-2	混み合います事日本一：無茶苦茶に客を詰込む神戸市電：一車一哩当乗客数は東京、大阪の殆ど倍：之が調節はドウすれば可いか	電気鉄道-4-083	『大阪毎日新聞』(1920(大正9)年4月10日)	神戸市電の乗客の混雑を問題視する記事。神戸市は乗客整理のために補助車掌を乗せたが、混雑の解消には効果がなかったとある。	 メタデータID: 00097094
4-3	十六日から開業する市営バス運転路線：市電との連絡便宜をはかって理想的の七運転系統に確定	交通-5-070	『神戸又新日報』(1930(昭和5)年9月3日)	1930(昭和5)年9月16日の開業を目前にした神戸市バスの記事。運転路線が決定したことを報じている。	メタデータID: 00104971 
4-4	ドコで、イツ頃ドウいう原因で死傷者を出す事故は起るか：神戸市内一ケ年間の交通事故	交通-4-088	『大阪毎日新聞』(1924(大正13)年5月27日)	1923(大正12)年5月～1924(大正13)年4月に神戸市内で起きた交通事故について調査した記事。市電の事故が最も多かったことがわかる。	 メタデータID: 00104751
4-5	神戸市内では電車が最も危険：県下一般では自転車最高交通事故統計	交通-4-093	『神戸新聞』(1924(大正13)年9月17日)	神戸市内では電車の事故が最も多く、その多くが乗客の不注意によるものであることを報じる。当時は飛び乗りや飛び降りといった危険行為が横行したらしい。	メタデータID: 00104756 
4-6	国際港都の恥辱：神戸市の時間給水問題：論草	水道-3-216	『大阪朝日新聞』(1936(昭和11)年9月2日)	時間給水実施当日の記事。神戸市では以前にも度々(大正6年、昭和2年、4年、9年)水不足による断水が起っており、これを問題視している。	 メタデータID: 00740884
4-7	水道竣成の工程：集水面積六平方里：一秒時の放水一万五千立方尺	水道-2-095	『大阪毎日新聞』(1921(大正10)年1月26日)	増大する水需要に応えるために、1911(明治44)年から実施された水道拡張工事の記事。この工事は1921(大正10)年3月に竣工した。	メタデータID: 00740644 
4-8	物価騰貴と生活難(上)	生活費問題-1-037	『神戸新聞』(1916(大正5)年12月13日)	第一次世界大戦開戦後、直接戦争に関係ない食料品や日用品の価格までもが暴騰した。1914～1916年の日本と米国の物価の騰落を比較した記事。	 メタデータID: 10058963

No.	記事見出し	記事分類	掲載紙・発行日付	コメント	メタデータIDとQRコード
4-9	米を節約なさい：混食をなさい代用食を取りなさい：県当局の宣伝	米-20-020	『大阪朝日新聞：神戸附録』(1919(大正8)年8月6日)	米価の高騰に対し、政府から節米代用食の訓令が出されたが、兵庫県でもさらに郡市長宛に混食及び代用食の普及実行に尽力すべしとの通牒が出された。	メタデータID: 00734588 
4-10	馬鈴薯の飯と経済関係と養分：神戸の試食会は十三日十五日：其調理方法及び貯蔵其他方法	食料問題-3-006	『大阪新報』(1919(大正8)年7月11日)	米の端境期に生産できることから、混食用の作物として馬鈴薯が奨励された。その調理法や栄養価を紹介するため、主婦を対象とする試食会が開催された。	 メタデータID: 10064373
4-11	米代用食品調理法：内務省衛生局調査	米-14-139	『大阪毎日新聞』(1919(大正8)年1月15～16日)	米に代わる主食として食べられていた、麦や芋類を使ったレシピ集。節米の宣伝のため、試食会や新聞紙面などを通じて、調理法の普及が図られていた。	メタデータID: 00733476 
4-12	神戸の米騒動：損害百四十万円	米-12-126	『神戸又新日報』(1918(大正7)年8月23日)	神戸における米騒動を報じた記事。神戸市内の被害を受けた商店は694戸、被害総額はおよそ140万円にのぼるとある。	 メタデータID: 00733136
4-13	万端申分のない東洋に誇る設備：きょう・輝しき晴れの竣工式：中央卸売市場完成	市場-7-028	『神戸新聞』(1932(昭和7)年5月28日)	1923(大正12)年の中央卸売市場法制定後、神戸市では直ちに市場開設の準備が進められ、1932(昭和7)年に竣工した。	メタデータID: 10015654 
4-14	差迫れる住宅問題	住居問題-2-002	『神戸又新日報』(1919(大正8)年6月2日)	都市民にとって、食糧問題以上に困難を訴えつつあるのは住宅問題だと指摘する記事。神戸市でも人口増加による家屋不足が深刻な問題となっていた。	 メタデータID: 10059335
4-15	住宅問題解決の急務	住居問題-2-028	『神戸新聞』(1919(大正8)年6月24日)	都市への人口集中による住宅問題の解決策について、尼崎市・大阪市・東京市・神戸市の事例が紹介されている。	メタデータID: 10059462 
4-16	ドンナ住宅が出来るか：市が公設せんとする九百戸：上中下の三等に分ち更に階上階下を別世帯とし都合千八百戸出来る：浴場、理髪所、市場も設ける	住居問題-3-003	『大阪毎日新聞』(1920(大正9)年1月16日)	住宅難緩和のために神戸市が計画した第一期公設住宅は、池を埋め立てて二階建て900戸を建築し、市吏員と教員に賃貸する予定であった。	 メタデータID: 10059679
4-17	海を埋立て東洋一の住宅地に：見事な海浜公園と大運河：見よ・五十年の後：阪神沿線五十年の後：兵庫県都市計画課長 安部邦一氏談	都市-12-002	『大阪毎日新聞』(1932(昭和7)年1月5日)	兵庫県都市計画課長がイメージする、阪神沿線の50年後の姿について書かれた記事。海岸線の埋立や交通機関、観光計画などに言及されている。	メタデータID: 00748906 
4-18	神戸市水禍の跡	災害及び災害予防-8-130	『大阪毎日新聞』(1938(昭和13)年7月10日)	1938(昭和13)年7月3日～5日に降った豪雨により起こった水害の、神戸市内における被害状況を報じる記事。調査は7月9日時点のものである。	 メタデータID: 10068911
4-19	阪神大水禍の調査報告(1～3)	災害及び災害予防-9-004	『大阪毎日新聞』(1938(昭和13)年8月31日～9月2日)	阪神大水害が起き、大きな被害をもたらされた原因を詳細に述べた記事。日本学術振興会災害科学研究所の調査に基づく。	メタデータID: 10070222 
4-20	六甲系の山地を開発し大遊楽場を設ける：きょう県立第一高女で開かれた：山地開発調査委員会の計画案	都市-11-047	『神戸又新日報』(1930(昭和5)年1月21日)	六甲山系山地の開発のため、山地開発調査委員会(兵庫県都市研究会)が立案した、交通機関、運動体育施設、娯楽休養施設などの計画案が紹介されている。	 メタデータID: 00748821
4-21	地は阪神の形勝ここに展示される帝国躍進の姿：時はこれ見物に絶好の季節：アッと驚く空前の余興：米国から招く大サーカス無料公開	博覧会及商品陳列所-6-122	『大阪毎日新聞』(1936(昭和11)年1月21日)	1936(昭和11)年に開催された「輝く日本大博覧会」では、浜甲子園に大余興場が設けられ、アメリカのグランドサーカスが公演を行った。	メタデータID: 00842272 
4-22	走りまわる汽車博覧会珍らしいのが人気を呼んで見物人が長蛇の列：大旗小旗を翻した美しい装飾：即売品もかなり売れたらしい：きょうは姫路で開く	博覧会及商品陳列所-5-024	『神戸新聞』(1926(大正15)年10月6日)	1926(大正15)年開催の国産振興汽車博覧会は、ボギー車5両に各地の産出品を積載して主要地を巡回するもので、西部列車が神戸と姫路に停車した。	 メタデータID: 00842012
4-23	九月二十日より華々しく開場した観艦式記念海港博覧会：時代の尖端を行く設備：近代科学の粋を集む：会期 九月二十日より十月末日まで：会場 第一会場 兵庫埋立地 三万坪：第二会場 湊川公園 一万一千坪：第三会場 関西学院跡 一万七千坪	博覧会及商品陳列所-5-116	『大阪朝日新聞』(1930(昭和5)年9月28日)	海港博覧会は兵庫埋立地・湊川公園・上筒井旧関西学院跡の三会場で同時開催され、神戸市営バスや市電などで会場間の連絡の便宜が図られていた。	メタデータID: 00842104 